

北野の春の囲碁桜

北野寿囲碁同好会 刀根 正樹

『落花の雪にふみまよう、北野の春の桜狩り』とは平家物語の道行きの一節。ここ八王子の北野では、ウバ桜ならぬ、ジジ桜が満開で、囲碁の花を咲かせている。これも、花咲翁の恵みとか。

老人たちはウキウキと、碁盤にむかい、石音高く勝負する。粛々と、蚕が桑を食むように、勝負にふける人々。奇声を発し、周囲を驚かす変人。『俺が一番強い』と、うそぶくのは、野猿峠の天狗か。殺し屋は、ニヒルな笑いを浮かべ、血桜の花吹雪を散らす。盤面からは、電波が乱れ飛ぶ。力戦派と正統派。川中島の合戦に似た大乱戦が展開している。

北野市民センターは、眺望のよいのが取り得か。8階の大展望室。新緑多摩丘陵を無情に切り割って、鉛色の16号バイパスが大蛇のようにうねり、北野駅に突進する。目を上げれば、丹沢の青い山並。そして白妙の富士が、神々しくも優美にそびえる。

かつて天女のような婦人が、事務所にいた。会場の鍵を1時間以上も早く開け、碁会場の設営に手を借した。富士を見詰めると、山肌がかすかに赤味を帯び、乙女の恥じらいを見せる。時折頂の上を、天女に似た雲が流れる。今思えば、彼女は、まさに羽衣の天女であった。



北野天満社

駅前にある養老乃瀧は、老人には、嬉しい名だ。『百年一度の大恐慌にしては、客の入りかよいな』『大久保利通は、唯一の趣味の囲碁で養ったヨミと判断力で、明治維新をなしとげた。今は小沢と与謝野の碁仇が、七段クラスで日本を導けるか』

『「碁が、日本を救うとか。われらも、信長や秀吉の気概で、天下をにらみ、酒をくみかわそうではないか』『おごれる者、国も企業も久しからず。ただ春の夜の夢のごとし』

春の碁や 富士もほほえむ 名勝負
いつまでも 生きるつもり 困碁桜
死神がニヤと盤面 のぞき込み
無理筋を 打って死ぬ碁や 春の酒
困碁なくて 何の老後ぞ 春の夢

(碁楽連だより 4月号 第212号 2009年4月1日)